

# 熊本記念(GⅢ) 主力の横顔



平原 康多

熊本地震で崩壊した熊本の滑走路バンクでは特別準Vもあれば、記念でも印象に残る活躍をした競輪界の第一人者は選手としても人間としても非の打ち処が無い真のスター。飛びつきの笑顔で「僕は賞金の高いレース(GP・ダービー・オールスター)の優勝には縁が無いので、獲る迄は努力します」と言った目は真剣。今年はスタートの立川記念を圧倒的パワーで制した時は、このまゝ勝ち進むのではと期待されたのに、万全を期して臨んだ地元大宮記念の決勝を取りこぼしてからは記念・特別と決勝には駒を進めても展開に恵まれず苦杯を

昨年の落車・失格をリベンジせんと臨んだ平オールスターはドリムレースでは存在感を誇示したのに、大事な準決勝で脇本雄太の半端ないパワーに屈したショックが最終日の落車に繋がったのかも。幸い怪我は全治1週間と言う事で元気に富山記念を走ったのは、これ全てスタートにしているGPに出るためか。飽くなき執念でライバルの脇本に教えを乞い、それを早速練習に取り入れる貪欲さこそがこの選手最大の長所。何をやってもし絵に成る超スターが熊本記念成功のため疾駆します。

舐めていたが、殻を破ったのが5月京王閣記念。共に練習する事もある吉澤純平(茨城)の献身的な先導もあっての完全V。この勢いで青森全プロ記念を制し、着々と賞金を積み上げ、静岡GP出場レースは好位置をキープしたのはこれ全て実力の成せる業。



中川 誠一郎

2年前の熊本地震で覚醒した天才スプリンター。ロンドン・リオデジャネイロ五輪を経験した事でナショナルチームは晴れて卒業したが、そこで培ったパワーが炸裂したのが静岡ダービーの優勝。この勢いで10月の地元記念(久留米)はフアンの大声援を背に優勝の快挙。昨年は初めてS・S班として赤いパンツを穿いたが、1月の和歌山記念V迄は順調だったのに2月の奈良記念で落車・失格した事で暗転。鎖骨・肋骨々折の重症以上に痛かったのが失格に依るペナルティ。6月の高松宮記念杯を走れなかつた流れが熊本記念は決勝に乗った

ものゝ連覇は叶わなかったが、今年も一度グランプリの舞台に立ちたいで人知れず凄く練習をやったのか、それが4月熊本F1(久留米)の完全優勝。この勢いで平塚ダービーを好走。続く名古屋記念準Vで一気に波に乗り、青森全プロ競技はスプリントで王座奪回に成功。これで10月前橋寛仁親王牌は晴れて理事長杯スタートの荣誉。

祖父として父に叔父と競輪一家に育った佐賀の素朴な青年は、こつこつと努力する事で何時の間にか九州輪界トップの座に。それを立証したのが平オールスターでのドリムメンバー入り。これは全国のファンが認めて投票してくれたからの結果。

期待に応えんと早くから調整に入り、フレームも注文通りの新品が届き、しっかりと乗り込んで本番を迎えたのに、練習と違ったのか、ドリム戦は平原康多が捲り、追った武田豊樹の後をキープしたのに伸び切れずの4着。それでも準決勝フリーパスのシャイングスター賞



山田 英明

に進出。こゝでも勘は冴え渡り、先制した新山響平・渡邊一成の後をキープしてたのに伸びる処か後退した事で準決はスパッと新車を切り捨て、元の慣れた物で2着に入ったのに、無情にも大量落車の原因を作った事で平オールスターは無念の2年連続失格で終焉

2003年の11月高知で開催された全日本選抜GIをゴール前の激斗を制し、落車し乍らの初戴冠で頂点に立つや、次の年は高松での共同杯、そして1年後の武雄ふるさとダービーも獲得、特別の決勝進出20回以上、GP4度出場の大選手だけど、周りを和ませるキャラクターは変わらず、おちゃらけた事ばかり言ってるが、その裏では凄く練習してるのが安定した成績。東日本大震災の原発騒動で弟々子の山崎芳仁一家と共に沖縄は宮古島に移動して練習に励んでいたが、子供の学校を考

とる事。展開もあって地元オールスターでは二次予選止まりだったのが、調子の良さは変わらず、思い出の高知バンクでの共同杯、前橋寛仁親王牌を転戦して迎える熊本記念。沖縄に住んでる関係で九州の地は地元と思ってるので、それも大好きな熊本の記念であれば愛着もあるのでは、パーフェクトに仕上げてもある事。今回は連携すれば悪かった事がない新山響平の番手は約束されてるので、しっかりと決勝に乗って狙うは優勝だけ、独特なパフォーマンスで大いに盛り上げる役目も担う。



古性 優作

御存知の通り昨年熊本記念の覇者。根性ムキ出しにして前々に攻める姿にシビれたファンは数知れず、玄人ファン人気No.1。今年は2月四日市全日本選抜で決勝に乗り、村上義弘・博幸の兄弟、椎木尾拓哉を連れて勇らしく赤板発進で散ったが、続く静岡記念は村上義弘を連れて、捲りを決めての優勝。

それからは更なる飛翔を目指してフレーム・セッティングを大幅に変えた事でミララングに陥ったが、4月末の熊本F1(久留米)は中川誠一郎の準Vで復調の兆し。F1戦で着々と結果を残して

迎えたのが平オールスター。初戦は1着のみが準決勝フリーパスのシャイングスター賞の特選で捲りを決め見事1着。難関の準決勝を突破するや決勝は村上義弘を差し置いて脇本雄太の番手に成った時は逆転Vでの初グランプリ決めの初ではと期待されたのに、



新山 響平

高校で頭角を現わした陸奥の怪童は、師匠の坂本勉氏と同じ日本大学に進学したが、どうせプロに成るならで107期を受験、卓越した能力で一生涯の想い出に成る卒記を優勝。

若いと言うのは素晴らしいもので、現在は成長過程と決めているのか、敢えて捲りは狙わず、ラインを引き連れて400バンクならば2周逃げて押し切れるパワーを身に付けてる最中。

は逃げて残れず、捲りに行ってもブロックで止められる試練を味わったが、何事にも動揺せぬ鷹揚な性格は先輩としてライバル達に可愛がられる事もあり、冬場にやった競輪学校での練習が実を結んだのか、今年も優勝こそゼロでも記念・特別で目立つ活躍をして